

三友美恵子



景観行政の促進と、コミュニティの拠点を求む

町長 必要性は感じているので、今後具体化していきたい

質問 景観行政は、単にきれいなまちづくりをするだけでなく、地域の良さを再認識し、誇りと愛着を生み、地域力の向上に結びつく施策である。なぜ進展しないのか。

答弁 町長 景観施策は、第5次総合計画や都市計画マスタープランで位置づけられている。しかし、住民の景観に対する意識が非常に低い。景観の意識を向上させるため、景観フォトコンテストを実施している。景観は住民とともにつくり上げていくものである。そのためにも興味を持って継続的に関心を集めていけるよう各種事業を取り入れ、景観のあり方や景観形成の取り組み方を研究・検討していく。

質問 平成25年度の重点施策の中に、「住民の力、地域の力を発揮しやすい環境をつくっていく」とあるが、コミュニティの拠点が存在しない。早急につくるべきだと思つが。

答弁 町長 必要性は十分に感じている。要望に応え、具体化していきたい。

質問 9月にダイヤ改正が行われた「たまりん」の利用状況は、どのようになっているか。



答弁 町長 現在は移行期間ということで、輸送人員は伸びていない。今回新たに回数券の販売を始めた。今後さらにPRを行うとともに、利用者が増加するように検討していく。

筑井あけみ



道の駅計画と直売所計画は大丈夫か

町長 玉村町の魅力をアピールしていく場所として設置したい

質問 道の駅は、平成27年4月オープンを目標に、現在開発許可などを県と協議中とのことである。進捗と現状は。

答弁 町長 平成25年1月には除外となる見込みであり、3月には農地転用、開発許可申請を行う計画である。

道の駅建設委員会を11月に発足させた。農業部門、商工部門、地元区長など関係者に参加していただき、皆さんに愛される道の駅となるよう進めていきたい。単に物を販売するだけではなく、町の魅力をアピールする情報発信源にしたいと考えている。知恵やアイデアを出し合い、成功させたい。

質問 第4保育所建設計画に、太陽光発電システムの導入を考えているか。

答弁 町長 太陽光発電システムの導入を設計業者に伝え、設計に入ったところである。

質問 小中学校の通学路は、安全対策と確認を十分に行っているか。要注意箇所の再確認が必要と考えるが。



答弁 教育長 各学校で策定している「学校安全計画」に基づき、年間を通して実施している。またPTA活動の一環として交通安全、防犯など状況を点検し、地域ぐるみで見守る体制を各学校で整えているところである。7月に、学校、町、伊勢崎警察署、伊勢崎土木事務所の担当者が危険箇所を確認し、今後の対策を検討した。横断歩道や注意喚起の看板を設置するなど、順次改善に努めていく。

JAしばね・じょうよう支店の 公民館としての活用は

町長 地域の人たちの意見を聞きながら検討していく



高橋 茂樹



JAしばね支店

質問 100以上の団体が、公民館や住民活動サポートセンター「ぱる」を利用してはいる。しばね・じょうよう支店の利用も考えた方がよいと思うが、いかがか。

質問 JAしばね支店・じょうよう支店は、玉村町公民館の分館として位置づけられている。今後どのように活用を続けていくのか。

答弁 教育長 公民館活動は、文化センターを拠点とし、生涯学習の一環として行っていくことを原則として考えているため、担当職員は現在配置されていない。JAの支店統廃合などの動向を踏まえ、今後の分館のあり方を検討していきたい。

答弁 教育長 夜間の管理をする人員がいらないため、現在は使えていない状況である。いろいろな方が活動できる場が必要だということとは重々承知している。十分検討したい。

質問 玉村地区のJA3支店には、統廃合の問題が出ている。統廃合された場合、しばね・じょうよう支店はどうなるのか。町はどの程度把握しているか。

答弁 町長 最近の情勢については、正式な情報はない。

質問 全て中央に集めるのではなく、地域の核として残してほしい。支店の跡地利用を前向きに検討するか。

答弁 町長 建物も老朽化しており、予算も相応になる。その点も含め、今後地域や団体の人たちの話し合いの中で検討していくということをご理解いただきたい。

福祉作業所の建てかえを望む

町長 さまざまな方策を視野に入れ、早急に検討する



川端 宏和



障害者福祉センター「たんぼぼ」

質問 障害者福祉センター「たんぼぼ」の移転、建てかえの見通しは。

答弁 町長 建物の老朽化、また利用希望者の増加により、手狭になっている。今後については、社会福祉協議会と協議のうえ、NPO法人等を含む民間事業者が施設を設置する場合に該当となる補助事業等の活用も視野に入れ、建てかえ等を含め、早急に検討する。

質問 県央南部地域連絡道路新橋建設促進の要望は、県に届いているのか。

答弁 町長 主要地方道前橋玉村線より南については、県道へ昇格して利根川新橋の建設促進並びに高崎市新町への延伸及び烏川新橋の建設促進について、県に對し要望活動を行っている。現在、東毛広域幹線道路が建設中であるこの時期は、この要望活動を継続していくことが重要と考えている。

質問 観光事業を推進するため、町はマスコットキャラクターを作成した。これを機に、グッズ作成など第2弾の事業を考えているか。

答弁 町長 熊本県のゆるキャラ「くまもん」は、25億円の経済効果をもたらすなど、市場経済へ及ぼす影響はかなり大きいと認識している。今後は、町で制定した使用承認基準に基づき、各企業が各種製品に活用できることにより、地域経済の活性化へも寄与できるものと考えている。

質問 観光事業を推進するため、町はマスコットキャラクターを作成した。これを機に、グッズ作成など第2弾の事業を考えているか。

答弁 町長 熊本県のゆるキャラ「くまもん」は、25億円の経済効果をもたらすなど、市場経済へ及ぼす影響はかなり大きいと認識している。今後は、町で制定した使用承認基準に基づき、各企業が各種製品に活用できることにより、地域経済の活性化へも寄与できるものと考えている。